

令和4年度 学院運営評価調査

評価項目	(1)-7 即戦力となる人材の育成【2年生を対象】
具体的な姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な現場作業を安全かつ的確に行う技術を有している</li> <li>○川上から川下まで産業全体の基礎知識を有している</li> <li>○就業後に必要な資格を取得している</li> </ul>

1-1 目標等の設定 (Plan)

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・即戦力となる人材を育成するためには、林業・木材産業の基礎から応用まで幅広い知識や現場で対応できる技術について習得させる必要がある。</li> <li>・学院の卒業生が就業先で即戦力として働くためには、現場作業で必要となる各種資格等を取得した上で、実習を反復練習し、技術の定着を図る必要がある。</li> </ul>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が修学期間中にカリキュラムに定められている必要な単位を全て取得し卒業できるよう、必要に応じて補講や個別指導等を行いながら教育活動を計画的に進める。</li> <li>・生徒の資格取得を促進するとともに、実習補助員の確保、一部科目の委託化等を実施し、生徒が現場に必要な知識・技術を習得できるよう講義・実習体制の改善を図り、十分な実習時間を確保する。</li> </ul>

1-2 取組の結果 (Do & Check)

実績と成果等		定性評価

2-1 成果指標の設定 (Plan)

指標名	実績		目標		定量評価	評価分析ほか
資格取得率	年度 値	R3 100%	年度 値	R4 100%	年度 R4	
[指標の説明] 現場作業を安全かつ適確に行うために最低限必要な8以上の資格等を取得した生徒の割合	増減方向	達成率の算式			目標値	
	増加	(実績値/目標値)×100			実績値	
					達成率	

2-2 成果指標の達成度合 (Do & Check)

指標名	実績		目標		定量評価	評価分析ほか
就職率	年度 値	R3 90%	年度 値	R4 100%	年度 R4	
[指標の説明] 道内の林業・木材産業に就業した生徒の割合	増減方向	達成率の算式			目標値	
	増加	(実績値/目標値)×100			実績値	
					達成率	

3-1 一次評価 (Do & Check)

4 改善策 (Action)

定性評価	定量評価	総合評価	対応方針

3-2 二次評価 (Do & Check)

評価項目	評価	意見
1 実施方法 改善策を踏まえた目標や成果指標が適切に設定をされているか。		
2 取組内容 目標等の達成に向けた取組みは適切か。		
3 評価結果 取組みの実績や成果は適切に評価されているか。		
4 改善策 改善策は適切に立てられているか。		

令和4年度 学院運営評価調査

評価項目	(1)-イ 企業等の中核を担う人材の育成【2年生を対象】
具体的な姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現場の統括管理や労働安全衛生、新たな技術による生産性向上など指導や企業経営マネジメントなどに関する知識を有している</li> <li>○林業・木材産業等の魅力を発信できる能力を有している</li> <li>○対話や情報分析を通じ地域の活性化に貢献する能力を有している</li> </ul>

1-1 目標等の設定 (Plan)

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業等の中核を担う人材を育成するためには、企業経営に関するマネジメントや安全管理等に関する知識について習得させる必要がある。</li> <li>・森林づくりのビジョンや林業等の魅力を発信できる人材を育成するためには、生徒が実践的な知識・技術を習得するとともに、自ら考え行動できるよう教育活動を進める必要がある。</li> </ul>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・林業経営者や林業機械メーカーの安全管理責任者等の外部講師を招聘し、専門的な見地から経営理念や安全管理に関する知識を習得できるよう講義や実習を行う。</li> <li>・林業の魅力を実感できる地域実習やインターンシップ活動、コミュニケーション能力を高めるための授業など、総合的な学習を推進する。</li> </ul>

1-2 取組の結果 (Do & Check)

実績と成果等		定性評価

2-1 成果指標の設定 (Plan)

指標名	実績		目標		定量評価	評価分析ほか
	年度値	R3	年度値	R4		
成績優秀者の割合		64%		50%	年度 R4	
[指標の説明] 「林業経営」の分野において成績評価が「良」(70~79点)以上を得た生徒の割合	増減方向	達成率の算式		目標値		
	増加	(実績値/目標値)×100		実績値		
				達成率		

2-2 成果指標の達成度合 (Do & Check)

指標名	実績		目標		定量評価	評価分析ほか
	年度値	R3	年度値	R4		
成績優秀者の割合		97%		50%	年度 R4	
[指標の説明] 「自主研究」の分野において成績評価が「良」(70~79点)以上を得た生徒の割合	増減方向	達成率の算式		目標値		
	増加	(実績値/目標値)×100		実績値		
				達成率		

3-1 一次評価 (Do & Check)

4 改善策 (Action)

定性評価	定量評価	総合評価	対応方針

3-2 二次評価 (Do & Check)

評価項目	評価	意見
1 実施方法 改善策を踏まえた目標や成果指標が適切に設定をされているか。		
2 取組内容 目標等の達成に向けた取組みは適切か。		
3 評価結果 取組みの実績や成果は適切に評価されているか。		
4 改善策 改善策は適切に立てられているか。		

令和4年度 学院運営評価調書

評価項目	(2)身につけるべき能力を習得するための教育課程
具体的な姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○森林調査・情報活用、林業経営、野生動物管理などの確かな森林調査・プランニング力を習得する課程となっている</li> <li>○育林技術、高性能林業機械などの機械操作・路網整備、森林保全など確かな森林施業の実践力を習得する課程となっている</li> <li>○森林活用、木育、木材の加工・利用など森林・林業の活用力を習得する課程となっている</li> <li>○コミュニケーションや合意形成、環境配慮、SDGsなど業務を円滑に進める行動力を習得する課程となっている</li> </ul>

1-1 目標等の設定 (Plan)

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、生徒に対し卒業に必要な単位数を確実に取得させる必要がある。</li> <li>・昨年度実施した教育課程に関するアンケート調査の結果を踏まえ、林業機械等の実習に係る生徒の待ち時間を短縮し、一人当たりの練習量を確保する必要がある。</li> <li>・フィンランドのリバリア林業専門学校との覚書に基づき、林業教育の充実を図るとともに、国際感覚を身につけた人材を育成する必要がある。</li> </ul>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度教育計画に従って、授業を計画的かつ適切に実施する。</li> <li>・グループ単位で実習を行うとともに、少人数の班による実施体制を整え、実習を効率的に実施する。</li> <li>・オンライン会議や海外研修等の実施を通じて、リバリア林業専門学校の教員及び学生との相互交流を推進する。</li> </ul>

1-2 取組の結果 (Do & Check)

実績と成果等		定性評価

2-1 成果指標の設定 (Plan)

指標名	実績		目標		定量評価	評価分析ほか
	年度値	R3	年度値	R4	年度	
学生の授業満足度評価		83%		70%	R4	
[指標の説明] 授業内容に関するアンケートにおいて、「概ね満足」以上と回答した学生の割合	増減方向	達成率の算式			目標値	
	増加	(実績値/目標値)×100			実績値	
					達成率	

2-2 成果指標の達成度合 (Do & Check)

指標名	実績		目標		定量評価	評価分析ほか
	年度値	R3	年度値	R4	年度	
高性能林業機械操作の習得		73%		70%	R4	
[指標の説明] シミュレーター操作の技能評価についてレベル3を達成した学生の割合	増減方向	達成率の算式			目標値	
	増加	(実績値/目標値)×100			実績値	
					達成率	

3-1 一次評価 (Do & Check)

4 改善策 (Action)

定性評価	定量評価	総合評価	対応方針

3-2 二次評価 (Do & Check)

評価項目	評価	意見
1 実施方法 改善策を踏まえた目標や成果指標が適切に設定をされているか。		
2 取組内容 目標等の達成に向けた取組みは適切か。		
3 評価結果 取組みの実績や成果は適切に評価されているか。		
4 改善策 改善策は適切に立てられているか。		

令和4年度 学院運営評価調書

評価項目	(3)能力のある生徒の受け入れ
具体的な姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な思考力・判断力・表現力や文章の理解・作成力がある者を受け入れている</li> <li>○北海道の林業・木材産業への強い関心がある者を受け入れている</li> <li>○道内外からの入学者を確保している</li> </ul>

1-1 目標等の設定 (Plan)

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の実績を踏まえ、入学試験を適切に実施するとともに、オンラインなどのツールを活用し、道内外向けの学院説明会を積極的に開催するなど学院の魅力を広く発信し、入学者の確保を図る。</li> <li>・コロナ禍で地方での暮らしや林業への関心層が多様化している中、これまで以上に幅広く人材を確保する必要がある。</li> </ul>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒確保に向けた情報発信を積極的に行い、全国から生徒を集められるよう受験機会の確保を図る。</li> <li>・オンラインなどのツールを活用し、道外からの入学者数の拡大を図る。</li> </ul>

1-2 取組の結果 (Do & Check)

実績と成果等		定性評価

2-1 成果指標の設定 (Plan)

指標名	実績		目標		定量評価	評価分析ほか
	年度値	R3	年度値	R4		
入学者数		40人		40人	年度 R4	
[指標の説明] 当学院の入学者数	増減方向	達成率の算式		目標値		
	増加	$(\text{実績値} / \text{目標値}) \times 100$		実績値		

2-2 成果指標の達成度合 (Do & Check)

指標名	実績		目標		定量評価	評価分析ほか
	年度値	R3	年度値	R4		
道外からの入学者数		18%		15%	年度 R4	
[指標の説明] 入学者に占める道外出身者の割合	増減方向	達成率の算式		目標値		
	増加	$(\text{実績値} / \text{目標値}) \times 100$		実績値		

3-1 一次評価 (Do & Check)

4 改善策 (Action)

定性評価	定量評価	総合評価	対応方針

3-2 二次評価 (Do & Check)

評価項目	評価	意見
1 実施方法 改善策を踏まえた目標や成果指標が適切に設定をされているか。		
2 取組内容 目標等の達成に向けた取組みは適切か。		
3 評価結果 取組みの実績や成果は適切に評価されているか。		
4 改善策 改善策は適切に立てられているか。		

令和4年度 学院運営評価調査

評価項目	(4)学院の適切な運営
具体的な姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会のニーズを踏まえた教育環境を整備している</li> <li>○教育活動等に関する情報を公開している</li> <li>○就職に関する支援体制を整備している</li> <li>○学院の教育資源や施設を活用した社会・地域貢献を行っている</li> <li>○学生生活に対する支援体制を整備している</li> <li>○卒業生に対するフォローや連携等を行う体制を整備している</li> </ul>

1-1 目標等の設定 (Plan)

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席日数や成績評価など生徒や教職員の利便性を高めるため、効率的な学院運営ができる環境を整える必要がある。</li> <li>・学校生活や運営状況等を広く周知するため、保護者や関係機関への情報発信が必要である。</li> <li>・卒業生を道内の林業・木材産業に着実に就業させる必要がある。</li> </ul>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会のデジタル化に対応した教材や学院運営に係る支援ツールを整備する。</li> <li>・SNSや定期刊物物等を活用し、学院の教育活動について積極的に情報発信する。</li> <li>・無料職業紹介事業の実施や企業訪問等を通じて、生徒の就業先を確保する。</li> <li>・卒業生同士の連携を促すとともに、就職先の定着状況を追跡し、必要に応じて指導・助言を行う。</li> </ul>

1-2 取組の結果 (Do & Check)

実績と成果等		定性評価

2-1 成果指標の設定 (Plan)

指標名	実績		目標		定量評価	評価分析ほか
	年度値	R3	年度値	R4	年度	
定期的な情報発信		174回		150回	R4	
〔指標の説明〕 学院の公式SNSに学院運営に関する情報を投稿した回数	増減方向	達成率の算式			目標値	
	増加	$(\text{実績値} / \text{目標値}) \times 100$			実績値	

2-2 成果指標の達成度合 (Do & Check)

指標名	実績		目標		定量評価	評価分析ほか
	年度値	R3	年度値	R4	年度	
学院に対する満足度		85%		80%	R4	
〔指標の説明〕 学生へのアンケート調査において、学院運営に対する満足度を「概ね満足」と回答した者の割合	増減方向	達成率の算式			目標値	
	増加	$(\text{実績値} / \text{目標値}) \times 100$			実績値	

3-1 一次評価 (Do & Check)

4 改善策 (Action)

定性評価	定量評価	総合評価	対応方針

3-2 二次評価 (Do & Check)

評価項目	評価	意見
1 実施方法 改善策を踏まえた目標や成果指標が適切に設定をされているか。		
2 取組内容 目標等の達成に向けた取組みは適切か。		
3 評価結果 取組みの実績や成果は適切に評価されているか。		
4 改善策 改善策は適切に立てられているか。		